

北海道更別農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和4年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	・各科目における学習および農業クラブ活動を通して、職業人としての資質向上をはかり社会に必要なとされる人材育成を行います。	・三大行事に対する事前学習を丁寧に行った。技術競技大会鑑定競技では、粘り強い指導が功を奏し全国大会農業鑑定競技分野生活で優秀賞を獲得した。	・生徒全体が更に意欲を高め、取り組めるように工夫する。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	・農業高校生海外研修事業をとおして、異なる国の農業や文化に触れ、世界と日本について考えます。	・JICAと連携し、異なる国の農業や文化に触れた。マラウイ出身の農業省農業研究サービス局農業研究科学官とZOOMで交流した。また、ラオスの方が来校し交流した。	・海外に赴かなくても知見を広められるような取り組みを実践する。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	・地域の生産基盤や環境の特徴を理解し効果的な生産活動に努めます。 ・インターンシップにより職業観を育成するとともに、関係機関と連携し農業にかかわる人材育成を目指します。	・JGAP認証取得を実施した。 ・8月に予定していたインターンシップは新型コロナウイルス感染症対策で延期とし、1月実施とした。	・JGAP維持審査に向けた準備・改善。 ・インターンシップにおいては、地域の感染症の状況を見極め、外部としっかり連携し、実施する。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	・地域の特産品および資源を研究教材としたプロジェクト活動をおとして、食品関連企業等と連携を深めます。	・校内で採取し培養したナタ菌を活用し、ナタデココ入りパンナコッタを石屋製菓と連携し商品化した。販売会では高評価を得た。	・連携活動を継続し、発展的に取り組めるようにする。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	・地域の基幹産業である畑作・畜産の学習をおとして、農業を起因とする環境問題について学びます。 ・圃場の輪作体系を考慮し、緑肥作物を1.0ヘクタール以上の面積で栽培します。	・十勝の基幹作物である馬鈴薯、小豆、麦、豆類を栽培し学習を進めた。また、乳牛の飼養管理について学習を進めた。 ・緑肥としてヒマワリを栽培し、鋤き込み地力増進を図った。	・学校農場を活用し、持続可能な循環型の農業経営についての学習を展開する。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	・地域資源を活用した加工品開発と地域イベントへの参加で、地域に貢献する活動を行います。 ・草花栽培をおとした交流学習を3回以上（幼稚園、小学校、高齢者）行います。	・感染症対策を徹底し、校内外の販売会に3回参加した。また、校内の販売会を2回実施した。外部の方から高評価を得た。 ・草花栽培に取り組み、花壇造成を幼稚園・小学校・道の駅・運動公園で実施した。	・感染症対策を徹底し、地域との交流学習を進める。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	・作物栽培において、ICT技術を活用したスマート農業について学習を行います。	・創立70周年記念事業として、自動操舵トラクタとセクションコントロール機能付播種機を活用したひまわりアートの制作を行った。また、三菱マヒンドラ農機様による講演会、セキド様によるドローン講演・実演会を実施した。	・ICT技術を活用した農業経営を生徒が理解し実践できるように取り組む。	5
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	・新型コロナウイルス対策や防災意識を高め、不測の事態に冷静に対応できる態度を育てます。	・創立70周年記念事業の一環で、宮城県から東日本大震災で被災された方を特別講師としてお迎えし、講演および座談会を実施した。避難訓練と併せて実施し、生徒に高い防災意識を身に付けさせることができた。	・各教科や実践との関連づけについて工夫する。	5